



北海道クールロジスティクスプレイス（温度管理型冷凍冷蔵庫）の竣工および営業開始予定について

2020年4月15日
苫小牧埠頭株式会社

北海道クールロジスティクスプレイス株式会社（代表取締役社長 橋本哲実）が建設・保有し、当社が運営を担う温度管理型冷凍冷蔵庫「北海道クールロジスティクスプレイス」につきましては、2018年8月に着工した工事が順調に進捗し、今後の日程が決まりましたのでお知らせ致します。

<今後の予定>

- ・2020年4月28日 竣工（建物引渡後、各種許認可の取得、施設の冷却作業に着手）
- ・同年5月下旬以降 営業開始（多温度帯毎の段階的操業を予定、今後詳細を調整）
- ・同年6月上旬 竣工式（予定）

なお、今回は日程のご連絡であり、事業の最新情報は営業開始時に改めて公表致します。

また、竣工式については、道内工事関係者等に限定した簡素な形で実施する予定です。

皆様のご理解のほどよろしくお願い致します。

当社では、苫小牧港において「食」の新たな物流拠点を形成し、食産業の高付加価値化、道産品の輸出拡大に貢献するため、新たな物流モデルを構築し、①食品出荷の平準化、②食品加工業の育成、③道内産品の混載・共同化、④空港と連携した輸出入体制の強化等に向けた取り組みを進めています。道内最大級の温度管理型冷蔵庫である「北海道クールロジスティクスプレイス」は、こうした取り組みを推進する中核施設として位置付けられるものです。

引き続き当社と致しましては、建設工事や操業準備、道内の幅広い農畜水産品、加工原材料等を中心とする長期安定荷主の確保を確実に進め、事業を円滑に立ち上げて参ります。

これにより、①道内原材料等の鮮度を維持した「長期保管インフラ」、災害対応力を支える「地域防災拠点」の整備を図り、食の物流の高度化へ貢献を目指します。

また、②北海道大学や株式会社苫東とともに立ち上げた北海道フードロジスティクス・イノベーション推進協議会を通じた高度な物流機能と食品加工機能を備えた「食産業基地モデル」実現に向けた検討を進めるとともに、③北海道エアポート株式会社との間でのダブルポート連携にかかる協議、苫小牧港小口混載コンテナ輸送の活用等を通じた「輸出手段のバリエーション提供」を目指し、北海道の食産業基地形成や食の輸出促進を目指した取り組みを着実に行って参ります。

今後とも、食産業の成長を通じて、「世界の北海道」と苫小牧港の発展に貢献する所存です。

以上

【会社概要】

| | |
|-----|---------------------------------------------------------|
| 会社名 | 北海道クールロジスティクスプレイス株式会社 |
| 本社 | 苫小牧市入船町3丁目4番21号(苫小牧埠頭(株)本社内) |
| 設立日 | 2017年12月1日 |
| 資本金 | 4億6千万円 |
| 株主 | 苫小牧埠頭(株)、(株)日本政策投資銀行、日本通運(株)、北海道空港(株)、 ホクレン農業協同組合連合会 |
| 代表者 | 橋本哲実(苫小牧埠頭(株)代表取締役社長) |

【完成予想図】



【現地航空写真】



【施設概要 (予定)】

| | |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 建設地 | 苫小牧市弁天1番地(苫小牧国際コンテナターミナル隣接地) — 苫小牧東港に立地、新千歳空港に近接、高速道路、札幌圏、苫東産業地域と連携 |
| 規模 | 敷地面積 28,441 m ² 建築面積 4,144 m ² 延床面積 14,738 m ² |
| 構造 | 鉄筋コンクリート造、地上5階建(倉庫は1~4階) |
| 収容能力 | 20,200t うち冷蔵 7,500t、冷凍 7,700t、冷凍・冷蔵切替 5,000t |
| 対応温度 | 冷蔵 0~15°C、冷凍 -38~-25°C、冷凍・冷蔵切替 -25~15°C |
| 鮮度保持機能 | CA(Controlled Atmosphere)冷蔵庫 2,800t、急速冷凍庫、加除湿装置 |
| 省力化設備 | 自動温度制御、自動倉庫、移動ラック、IT活用等 |
| 省エネ・環境対策 | 外断熱工法、自然冷媒機器(二酸化炭素、アンモニアを使用)等 |
| BCP対策 | 耐震Ⅱ類、津波避難場所機能、免震装置、非常用発電機等 |
| 総事業費 | 70億円 |
| 着工・竣工・開業 | 2018年8月着工、2020年4月28日竣工、2020年5月下旬営業開始(予定) |